

令和3年度 出資団体評価シート

1 基本情報

団体名	株式会社 札幌振興公社	所管課	経済観光局 観光・MICE推進部
基本財産	476,752千円	記入者	担当 三浦 電話 011-211-2376
設立年月日	昭和32年(1957年) 7月12日	本市出資額	391,752千円 (出資割合 82.2%)
設立・出資目的	公共用地の先行取得事業、不動産賃貸事業、児童遊園施設等の経営を行うことを目的に設立された。その後、平成10年12月に株式会社札幌交通開発公社を吸収合併し、藻岩山ロープウェイ等の事業を引き継いだ。当初、公有地の先行取得を主な目的としていたが、現在は、不動産の賃貸、駐車場等の公益的事業の管理運営、観光・スポーツ施設の管理運営等を通じて都市機能の維持向上を図ることを目的としている。	出資年月日	昭和32年(1957年) 8月31日
沿革	昭和32年 会社設立 昭和60年 藻岩山ロープウェイ営業開始(※) 平成8年 大倉山ジャンプ競技場等の管理開始 平成10年 札幌交通開発公社と合併 平成23年 藻岩山ロープウェイリニューアル ※印は札幌交通開発公社の事業	代表者	代表取締役社長(常勤) 板垣 昭彦(市OB)
主な出資者	① 札幌市 (82.2%) ② ㈱北洋銀行 (8.4%) ③ ㈱北海道銀行 (4.2%) ④ 北海道瓦斯㈱ (2.1%) ⑤ ㈱さっぽろテレビ塔 (1.9%) ⑥ 札幌商工会議所 (1.2%)	団体所在地	〒060-0012 札幌市中央区北12条西23丁目2番5号SDC北12条ビル 電話 011-616-1601

2 実施事業 (詳細については事業評価シート参照)

(1) [No.] [主要事業名] (該当ページ)	
[設立・出資目的と当該事業との具体的な関連性]	
① ジャンプ競技場等の管理運営 (6ページ)	② 札幌駅周辺自転車等駐車場管理 (7ページ)
ジャンプ競技場の指定管理等を通じて、ジャンプ競技に対する市民の理解を深め、普及振興及び競技力の向上を図る。また、オリンピックミュージアムのリニューアル及びオリンピックミュージアムネットワークへの加盟を契機として、オリンピズムの普及啓発及び冬季オリンピック・パラリンピックの機運醸成を図る。	指定管理者として札幌駅周辺の駐輪場の適切かつ円滑な管理を行う。
③ 不動産賃貸・駐車場事業等 (8ページ)	④ 藻岩山観光事業 (9ページ)
不動産賃貸については、札幌市の要請に基づいて建設したビル等の経営や公社所有地の有効活用を通じて、都市機能の向上に寄与する。直営駐車場について、地下鉄駅等の交通機関の要衝に位置しており、パークアンドライドを目的とした駐車場を中心に管理運営し、都心の渋滞緩和や公共交通機関の利用促進を促すことに寄与する。	札幌の観光を代表する藻岩山は、その自然を生かした観光資源として、保全と活用によって魅力アップを一層促進し、市民には誇りと、観光客には喜びや、驚きを与える観光名所として重要な役割を担っていく。
⑤	⑥
⑦	⑧
(2) 総支出に占める事業支出割合 80.5% (主要事業支出合計 2,130,580千円 ÷ 総支出 2,645,209千円)	
(3) 主要事業の有効性 (出資・設立目的に対して事業効果は、十分出ているか)	
評価	<input type="checkbox"/> 十分出ている <input checked="" type="checkbox"/> 高める余地あり <input type="checkbox"/> 出していない
理由	日本新三大夜景都市に札幌が認定された理由の一つとして、藻岩山の観光資源である夜景の魅力向上に努めたことが大きく貢献していると考えられることなどから、藻岩山観光事業は観光振興に寄与しており、札幌振興公社が行うその他各事業においても、出資・設立目的に対して一定の効果が出ているものと考えているが、今後、事業効果をより一層高めていく必要があると認識している。
(4) 主要事業の質・量 (出資・設立目的の達成のために、必要十分な事業が実施されているか)	
評価	<input checked="" type="checkbox"/> 実施されている <input type="checkbox"/> 一部見直す必要がある <input type="checkbox"/> 実施されていない
理由	札幌振興公社は、出資・設立目的を達成するために必要な事業を実施していると認識しているが、今後も内容の工夫を求めていく。

3 団体職員・構成員等

令和3年4月1日現在(単位:人)

	本市OB	本市派遣	プロパー	その他	総数	プロパー職員の年齢構成	役員任期
役員						10歳代 0 40歳代 16 20歳代 5 50歳代 10 30歳代 14 60歳代 0 平均年齢 41.9 歳	取締役 2年 監査役 4年 代表権のある役員 の就任年月 取締役 H30.6 監査役 職員総数の推移(人) H31.4.1時点 172 R02.4.1時点 174
常勤取締役	3	0	2	0	14		
常勤監査役	0	0	0	0			
非常勤取締役				7			
非常勤監査役				2			
職員							
常勤管理職	1	0	9	3	175		
常勤一般職	2	0	36	68			
非常勤職員				56			

4 財政状況

※数字は団体決算ベース（金額単位：千円）

区 分		R1年度決算	R2年度決算	(前年比)	
財務状況	経常収入内訳	経常収入 (a+f)	2,648,405	2,169,319 (100.0%) (▲ 479,086)	
	損益計算書	営業	売上高 (a)	2,594,683	2,097,136 (▲ 497,547)
			営業費用 (b)	2,626,173	2,645,209 (+19,036)
			うち販売費・一般管理費 (c)	2,570,390	2,590,291 (119.4%) (+19,901)
			うち人件費 (d)	715,688	725,595 (33.4%) (+9,907)
			営業利益 (e)	▲ 31,490	▲ 548,073 (▲ 516,583)
	営業外	営業外収益 (f)	53,722	72,183 (+18,461)	
	当期純利益 (g)	▲ 38,431	▲ 581,498 (▲ 543,067)		
	貸借対照表	資産 (h)	13,127,660	13,011,486 (▲ 116,174)	
		流動資産 (i)	836,867	750,646 (▲ 86,221)	
		固定資産 (j)	12,290,793	12,260,840 (▲ 29,953)	
		負債 (k)	9,962,792	10,434,094 (+471,302)	
		流動負債 (l)	719,548	1,005,419 (+285,871)	
		固定負債 (m)	9,243,244	9,428,675 (+185,431)	
純資産 (n)		3,164,868	2,577,392 (▲ 587,476)		
資本金 (o)		476,752	100,000 (▲ 376,752)		
借入金残高 (p)	2,460,066	3,124,664 (+664,598)			

R2年度決算の概要

区分	当期収入の増減、収支の状況、資産・負債の大幅な変動の要因等
a ~ d	新型コロナウイルス感染症の拡大により休業や時短営業を行うなど、観光部門を中心に大きな影響を受け売上高は減少した。また、大倉山のリニューアル工事による減価償却費の増加や、同じくリニューアルによるレストランスタッフの増員等により人件費が増加した。
e ~ g	上記の要因により、営業利益、当期純利益は減少したが、上記の影響を受け政府等の経営支援策を活用した為、雇用調整助成金等の入金により営業外収益は増加した。
h ~ m	大倉山リニューアル工事の資産を計上しつつも、その他固定資産の減価償却も進んでいるため資産が減少した。同工事による借入のほか運転資金の借入も行い負債は増加した。また無償減資の実施により資本金が減少した。

※詳細は、別添の貸借対照表、損益計算書を参照。

5 本市の財政的関与

※数字は札幌市決算ベース（金額単位：千円）

区 分	R1年度決算	R2年度決算	(前年比)
市補助金・交付金・負担金	41,850	0	(▲ 41,850)
市委託料	198,317	204,347	(+6,030)
市業務委託料	5,582	5,885	(+303)
うち随意契約	884	902	(+18)
市指定管理費	192,735	198,462	(+5,727)
うち非公募	0	0	(0)
(参考) 再委託額	108,938	103,907	(▲ 5,031)
うち市業務委託分	0	0	(0)
再委託率	(59.3%)	(54.9%)	(▲ 4.4%)
市貸付金	0	0	(0)
市貸付金残高	0	0	(0)
損失補償等限度額	0	0	(0)
損失補償契約等に係る債務残高	0	0	(0)
(参考) 市施設利用料金収入	90,876	61,419	(▲ 29,457)
うち非公募	0	0	(0)

6 財務指標に基づく評価

(金額単位：千円)

項目		R1年度	R2年度	(前年比)	評価基準	備考
(1)健全性	剰余金(n-o)	2,688,116	2,477,392	(▲210,724)	前年比較増	正味財産-基本財産
	自己資本比率(n÷h)	24.1%	19.8%	(▲4.3%)	≥50%	正味財産÷資産
	流動比率(i÷l)	116.3%	74.7%	(▲41.6%)	≥150%	流動資産÷流動負債
	固定比率(j÷n)	388.4%	475.7%	(+87.4%)	≤100%	固定資産÷正味財産
	借入金依存度(p÷h)	18.7%	24.0%	(+5.3%)	前年比較減	借入金残高÷資産
(2)生産性	職員一人当り経常収益	15,398千円	12,467千円	(▲2,930千円)	前年比較増	経常収益÷職員総数
	人件費率(経常収益比)(d÷a)	27.6%	34.6%	(+7.0%)	前年比較減	人件費÷経常収益
	職員一人当り管理費	14,944千円	14,887千円	(▲57千円)	前年比較減	管理費等÷職員総数
	管理費率(経常収益比)(c÷a)	99.1%	123.5%	(+24.5%)	前年比較減	管理費等÷経常収益
(3)自立性	市依存度(収入)	1.6%	0.0%	(▲1.6%)	前年比較減	市収入(注1)÷経常収益
	市財政的関与割合(収入)	12.5%	12.3%	(▲0.2%)	前年比較減	市収入(注2)÷経常収益

健全性の評価

非常に高い 高い 概ね健全 やや低い 低い

理由
健全性については、剰余金が前年度より減少していることや、自己資本比率や流動比率、固定比率などの評価基準が下回っているためやや低いとした。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で、売上が大きく減少し当期利益がマイナスとなったことによる一過性のものであると判断されるため、問題ないと判断される。
生産性については、人件費率や管理費率が前年度より増加しているためやや低いとした。しかし、新型コロナウイルスの影響により売上が大幅に減少したことによる一過性のものであると判断されるため、問題ないと判断される。また、自立性については、市依存度や市財政的関与割合が前年度より減少しており、自立性の高い状態が保たれていると判断される。

(注1)市収入=市補助金・交付金・負担金+市業務委託料(随意契約分)+市指定管理費(非公募分)+市施設利用料金収入(非公募分)

(注2)市収入=市補助金・交付金・負担金+市業務委託料+市指定管理費+市施設利用料金収入

7 「札幌市出資団体の在り方に関する基本方針」に基づく具体的な行動計画の総括評価

ここでは、具体的な行動計画(※1)で示した取組目標について、年度ごとの指標(※2)の達成状況と集中取組期間の総括評価を行う。

※1詳細については具体的な行動計画(別冊子)を参照

※2指標の実績値は各年度末時点のもの

(1)出資・出捐

○取組目標		計画策定時	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
No.	指標名						
○出資の見直し							
①	市出資金	目標	-	391,752千円	391,752千円	391,752千円	391,752千円
		実績	391,752千円	391,752千円	391,752千円	391,752千円	391,752千円
②	出資比率引き下げ検討状況	目標	-	-	-	-	出資比率引き下げ検討
		実績	-	-	-	-	検討実施
○総括評価							
達成		【取組結果】					
評価	出資比率の引き下げにあたっては、当該団体の財務への影響や他の出資者の動向などの課題があり、当面、出資を継続する。これらの課題についても勘案しつつ、新型コロナウイルスの影響も踏まえ、当該団体の経営状況を見ながら引き続き検討していく。						

(2)人的関与

○取組目標		計画策定時	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
No.	指標名						
○適切な人的関与の継続							
①	市職員派遣職員数	目標	-	0	0	0	0
		実績	0	0	0	0	0
②	役員の就任数(取締役)	目標	-	1	1	1	1
		実績	2	2	2	2	2
○総括評価							
達成		【取組結果】					
評価	役員の就任数については、計画策定時より最小限の人的関与と考えられる2名の実績があり、目標と実績に乖離が生じているが、両局からの関与は引き続き必要であり、最小限の人的関与を継続していると判断されるため達成とする。						

(3) 団体の活用

○取組目標		計画策定時	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
No.	指標名						
○藻岩山、大倉山の利用者増							
①	藻岩山施設利用者数 (ロープウェイ、観光道路)	目標	-	677千人	677千人	677千人	677千人
		実績	628千人	774千人	906千人	867千人	808千人
②	大倉山施設利用者数(リフト)	目標	-	532千人	537千人	547千人	552千人
		実績	507千人	475千人	510千人	480千人	476千人
○総括評価							
		未達成					
		【取組結果】					
評価	藻岩山は、令和元年度までは、来場者数、売上高ともに順調に目標値を達成していたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、来場者数、売上高ともに目標値を大幅に下回った。大倉山の利用者数については、平成30年度の北海道胆振東部地震の影響を受けて減少、令和元年度にリニューアルに伴う改修工事のために一時休業したことに加え、さらにこの度の新型コロナウイルス感染症の影響により目標値を下回っている。						

(4) 更なる経営の安定化

○取組目標		計画策定時	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
No.	指標名						
○業務効率化による経費の削減							
①	人件費	目標	-	637,255千円	608,321千円	606,034千円	606,466千円
		実績	608,851千円	636,090千円	652,124千円	677,078千円	715,688千円
②	一般管理費(人件費・減価償却費を除く。)	目標	-	1,282,350千円	1,357,581千円	1,389,375千円	1,103,791千円
		実績	1,146,728千円	1,252,795千円	1,298,144千円	1,306,649千円	1,288,439千円
○総括評価							
		未達成					
		【取組結果】					
評価	人件費については平成30年度の大倉山リニューアルに伴う人員の増加や人件費の高騰により目標値を上回っているが、事業規模が拡大する中で効率的な人員配置により増加幅を最小限に留めていることは評価できる。一般管理費についても、目標を上回っていることから目標は未達成であるが、委託業務の直営化など、管理費削減に努めており、取り組みには一定の評価ができる。						

(5) 団体統制

○取組目標		計画策定時	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
No.	指標名						
○社員の資質向上							
①	階層・職種別研修実施	目標	-	7回	7回	7回	7回
		実績	7回	4回	3回	6回	8回
○総括評価							
		達成					
		【取組結果】					
評価	研修実施回数が計画当初は目標を下回っていたものの、令和元年度及び令和2年度と、近年は目標値を上回っていることは一定の評価ができるため、目標達成とする。						

(6) 札幌市の施策との連動

○取組目標		計画策定時	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
No.	指標名						
○障がいのある方の自立支援							
①	障がい者就労支援施設からの物品調達や業務委託件数	目標	-	7件	8件	8件	8件
		実績	7件	6件	6件	3件	4件
②	障がいのある方の雇用人数	目標	-	2人	3人	3人	3人
		実績	1人	1人	2人	2人	2人
○総括評価							
		未達成					
		【取組結果】					
評価	システム化に伴う委託業務の減少により障害者就労施設からの物品調達や業務委託が減少していることにより、目標を下回った。また、障がいのある方の雇用人数については、定数から不足している技術職員の補充や女性職員の積極的な採用などに重点を置いた結果、採用には至らず目標を下回っている。						

事業評価 (1) ジャンプ競技場等の管理運営

1. 事業概要	事業所管課： スポーツ局スポーツ部施設課	担当： 依岡	電話： 011-211-3045
(1)事業内容	①札幌市大倉山ジャンプ競技場 ②札幌市宮の森ジャンプ競技場 ③札幌市荒井山ジャンツェ ④札幌オリンピックミュージアム ・施設、設備の維持管理 ・施設の利用供与 ・大型映像車貸出 ジャンプ大会、プロ野球公式戦、防災訓練、YOSAKOIソーラン祭り等 ・イベントの実施(自主事業) 大倉山ウィンターフェスタの実施 【市の関連事業名】 観光施設利用促進費		市指定管理費(公費) 159,249
(2)事業目的	観光・スポーツ施設の管理運営等を通じて都市機能の維持向上を図るため		
(3)事業開始	①、②、③：平成8年(1996年)4月 ④：平成12年(2000年)4月 ※平成18年からは指定管理者として業務を継続		

2. 実施結果

(1)事業収支(単位：千円)	項目	R1年度	R2年度	(前年比)	
	収入(経常収益比)		231,551 (8.7%)	214,999 (9.9%)	(▲ 16,552)
	市補助金・交付金・負担金	0	0	(0)	
	市業務委託料	0	0	(0)	
	市指定管理費	160,100	159,249	(▲ 851)	
	市施設利用料金収入	54,693	28,127	(▲ 26,566)	
	自主事業収入(補助金除く)	4,661	10,010	(+5,349)	
	その他収入	12,097	17,613	(+5,516)	
	費用(支出)	235,843	264,551	(+28,708)	
	事業費	206,022	231,546	(+25,524)	
	管理費等	29,821	33,005	(+3,184)	
	収支差	▲ 4,292	▲ 49,552	(▲ 45,260)	
	収支比率	98.18%	81.27%	(▲ 16.91%)	
(2)活動指標		R1年度実績	R2年度目標	R2年度実績	R3年度目標
①	ジャンプ練習促進の為、ジャンプ台無料開放(7/1~10/20の金土日)	4日間	5日間	16日間	実施予定
②	ウィンターフェスタの実施	実施(2月16日)	実施予定	中止	実施予定
③	オリパラ教育の実施	実施(61校)	実施予定	実施(53校)	実施予定
④					
⑤					
⑥					
(3)成果指標		R1年度実績	R2年度目標	R2年度実績	R3年度目標
①	リフト利用者数(延べ人数)	475,765	526,000	257,086	418,700
②	ミュージアム来場者数	114,701	114,800	101,604	99,100
③	ミュージアム来場者アンケート総合満足度	95%	95%	97%	95%
④					
⑤					
⑥					

3. 所管局による評価

(1)事業の実施結果の有効性	事業目的に対して事業の効果は <input type="checkbox"/> 十分出ている <input checked="" type="checkbox"/> 高める余地あり <input type="checkbox"/> 出していない 札幌オリンピックミュージアムについては新型コロナウイルス感染症の影響により利用者が減少している。今年度はミュージアムショップやレストランのリニューアル等を実施しているが、大倉山全体の魅力を上げる施策を引き続き実施し、今後もジャンプ競技やウィンタースポーツの普及振興に寄与していただきたい。 また、オリンピズムの普及という観点でも、市内の小学校53校へのオリパラ教育を実施しており、今後とも、継続して取り組んでいただきたい。
(2)収支状況	当該事業の収支状況は <input type="checkbox"/> 良好 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地あり <input type="checkbox"/> 要改善 施設利用料金収入の減少等により赤字になっているが、新たな顧客の開拓や、大倉山ジャンプ競技場の魅力を上げることにより、来場者数の増加を図り、安定した施設の管理運営に取り組んでいただきたい。

事業評価 (2) 札幌駅周辺自転車等駐車場管理

1. 事業概要	事業所管課：建設局総務部自転車対策担当課	担当：中居	電話：011-211-2456
(1)事業内容	各種駐輪場の管理運営、駐輪場料金の収受		市指定管理費(公券) 21,171
(2)事業目的	駐輪場の適切かつ円滑な管理を通じた都市機能の維持向上を図るため		
(3)事業開始	平成19年度		

2. 実施結果

(1)事業収支 (単位 千円)	項目	R1年度	R2年度	(前年比)	
	収入 (経常収益比)		62,513 (2.4 %)	58,414 (2.7 %)	▲ 4,099
	市補助金・交付金・負担金	0	0	(0)	
	市業務委託料	0	0	(0)	
	市指定管理費	21,076	21,171	(+95)	
	市施設利用料金収入	36,183	33,292	▲ 2,891	
	自主事業収入(補助金除く)	5,254	1,769	▲ 3,485	
	その他収入	0	2,182	(+2,182)	
	費用(支出)	60,214	59,809	▲ 405	
	事業費	60,214	59,809	▲ 405	
	管理費等	0	0	(0)	
	収支差	2,299	▲ 1,395	▲ 3,694	
	収支比率	103.82%	97.67%	▲ 6.15%	
(2)活動指標		R1年度実績	R2年度目標	R2年度実績	R3年度目標
①	職員の意識統制による親切で丁寧なサービスの徹底	実施済	継続実施	実施済	継続実施
②	自転車等管理システムによる円滑で正確な管理体制の実践	実施済	継続実施	実施済	継続実施
③	定期券販売開始日等の繁忙期における人員増員(案内・整理・誘導対応)	実施済	継続実施	実施済	継続実施
④	パンフレット・ポスター・WEBを利用した周知徹底	実施済	継続実施	実施済	継続実施
⑤					
⑥					
(3)成果指標		R1年度実績	R2年度目標	R2年度実績	R3年度目標
①	有料駐輪場利用者数(定期利用)	6,664	7,000	5,860	6,000
②	有料駐輪場利用者数(一時利用)	130,266	131,000	136,126	137,000
③	有料駐輪場利用料金収入(千円)	36,183	36,802	33,292	34,373
④	利用者満足調査(※)	100%	100%	95%	100%
⑤	※(ホームページでのアンケート調査で運営管理について「良い」・「普通」・「悪い」の内「普通」以上と回答した割合)				
⑥					

3. 所管局による評価

(1)事業の実施結果の有効性	事業目的に対して事業の効果は <input checked="" type="checkbox"/> 十分出ている <input type="checkbox"/> 高める余地あり <input type="checkbox"/> 出していない
	施設の管理運営は適正に執行され、利用者からの意見に基づき運用方法を改善しており、利用者の満足度も概ね高いことから、丁寧な対応を心がけていることが見て取れる。また、自転車の一時利用件数は計画及び昨年度実績を大きく上回る結果となったことは評価できる。
(2)収支状況	当該事業の収支状況は <input type="checkbox"/> 良好 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地あり <input type="checkbox"/> 要改善
	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、指定管理業務の定期利用収入と自主事業収入が大きく落ち込んだため、結果的に計画収支は大幅に未達成となった。新型コロナウイルス感染拡大の影響はやむを得ないと考えるが、今後も引き続き収支計画達成のため、営業活動及びコスト削減などの対策を講じること。

事業評価 (3) 不動産賃貸・駐車場事業等

1. 事業概要	事業所管課： 経済観光局観光・MICE推進部観光・MICE推進課	担当： 三浦	電話： 011-211-2376
(1)事業内容	①建物賃貸事業 SDC北12条ビル、宮の沢ターミナルビル、白石ガーデンプレイス、セレスタ札幌、大谷地アドバンシービル（セカンドストリート等）、幌北総合センターすすきの市場、山の手店舗（インポート・プラス）新札幌薬局（クリオネ薬局）、さっぽろ創世スクエア北14条複合店舗（オートボックス）、旧小熊邸（ドリーバーデン）など ②月極・時間貸し駐車場の運営 二十四軒、新札幌、大谷地、琴似北14条、大谷地東、宮の沢（全てパークアンドライド実施）		
(2)事業目的	直営駐車場においては、地下鉄駅等の交通機関の要衝に位置することから、パークアンドライドを目的とした駐車場が多い。従って、都心の渋滞緩和や公共交通機関の利用促進を促すことを目的とする。		
(3)事業開始	平成10年度		

2. 実施結果

(1)事業収支 (単位 千円)	項目	R1年度	R2年度	(前年比)	
	収入 (経常収益比)		1,588,041 (60.0 %)	1,512,977 (69.7 %)	▲ 75,064
	市補助金・交付金・負担金	0	0	(0)	
	市業務委託料	0	0	(0)	
	市指定管理費	0	0	(0)	
	市施設利用料金収入	0	0	(0)	
	自主事業収入（補助金除く）	1,553,070	1,489,450	▲ 63,620	
	その他収入	34,971	23,527	▲ 11,444	
	費用（支出）	1,229,413	1,224,975	▲ 4,438	
	事業費	1,229,413	1,224,975	▲ 4,438	
	管理費等	0	0	(0)	
	収支差	358,628	288,002	▲ 70,626	
	収支比率	129.17%	123.51%	▲ 5.66%	
(2)活動指標		R1年度実績	R2年度目標	R2年度実績	R3年度目標
①	テナントに向けた不動産仲介会社との連携	実施済	継続実施	実施済	継続実施
②	ホームページ等での駐車場案内	実施済	継続実施	実施済	継続実施
③					
④					
⑤					
⑥					
(3)成果指標		R1年度実績	R2年度目標	R2年度実績	R3年度目標
①	直営駐車場（満車達成率）	65%	80%	76%	80%
②	賃貸ビル等（稼働率）	99%	100%	96%	100%
③					
④					
⑤					
⑥					

3. 所管局による評価

(1)事業の実施結果の有効性	事業目的に対して事業の効果は <input type="checkbox"/> 十分出ている <input checked="" type="checkbox"/> 高める余地あり <input type="checkbox"/> 出していない 新型コロナウイルスの影響もあり、建物賃貸事業の稼働率、駐車場事業の満車達成率が共に低下している。今後もテナント募集に向けた不動産仲介業者との連携やホームページ等での駐車案内を継続して実施するとともに、都心の渋滞緩和や公共交通機関の利用促進を図るために、更なる利用促進について取り組んでいただきたい。
(2)収支状況	当該事業の収支状況は <input type="checkbox"/> 良好 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地あり <input type="checkbox"/> 要改善 不採算化している賃貸店舗の閉店など、経費の削減に努めたことは一定の評価が出来るが、一方、経常収益が減少していることから、見直しの余地があると判断する。今後も、経費削減に努めながら、安定的かつ継続的な収入を確保するために、賃料収入の増加のための施策を講じるなど、不動産及び駐車場の利用拡大の促進に努めていただきたい。

事業評価 (4) 藻岩山観光事業

1. 事業概要	事業所管課： 経済観光局観光・MICE推進部観光・MICE推進課	担当： 三浦・新谷	電話： 011-211-2376
(1)事業内容	①藻岩山ロープウェイの経営 ②藻岩山観光道路の経営 ③藻岩山頂展望台の経営 ④藻岩山山頂レストラン「THE JEWELS」の経営 ⑤藻岩山スキー場ロッジの経営 ⑥藻岩山中腹売店の経営 【市の関連事業名】 観光施設利用促進費		市委託料(随意契約) 820
(2)事業目的	札幌の観光を代表する藻岩山は、その自然を生かした観光資源として、保全と活用によって魅力アップを一層促進し、市民には誇りと、観光客には喜びや、驚きを与える観光名所として重要な役割を担っていくことが求められている。従って、市民の藻岩山観光に対する再認識のための広告・営業活動・観光客誘致のための旅行代理店等に対する営業活動等を通して、更なる利用を促進させる。		
(3)事業開始	昭和60年(1985年) 8月		

2. 実施結果

(1)事業収支(単位千円)	項目	R1年度	R2年度	(前年比)	
	収入(経常収益比)	594,799 (22.5 %)	271,401 (12.5 %)	▲ 323,398	
市補助金・交付金・負担金	41,850	0	▲ 41,850		
市業務委託料	804	820	(+16)		
市指定管理費	0	0	(0)		
市施設利用料金収入	0	0	(0)		
自主事業収入(補助金除く)	545,364	255,348	▲ 290,016		
その他収入	6,781	15,233	(+8,452)		
費用(支出)	612,777	581,245	▲ 31,532		
事業費	612,777	581,245	▲ 31,532		
管理費等	0	0	(0)		
収支差	▲ 17,978	▲ 309,844	▲ 291,866		
収支比率	97.07%	46.69%	▲ 50.37%		
(2)活動指標		R1年度実績	R2年度目標	R2年度実績	R3年度目標
① イベント回数		94回	実施未定	0回	2回
② 札幌市内小学校生徒等へのイベント告知(チラシ配布)		実施済	実施未定	未実施	未定
③ 索道技術研修		17人	0人	13人	未定
④					
⑤					
⑥					
(3)成果指標		R1年度実績	R2年度目標	R2年度実績	R3年度目標
① 藻岩山施設利用者数(延人員)		808千人	940千人	384千人	616千人
② 市民割引利用者数(実人員)		20,430人	27,000人	16,500人	17,150人
③					
④					
⑤					
⑥					

3. 所管局による評価

(1)事業の実施結果の有効性	事業目的に対して事業の効果は <input type="checkbox"/> 十分出ている <input checked="" type="checkbox"/> 高める余地あり <input type="checkbox"/> 出していない
	藻岩山は新型コロナウイルスの影響を受けており、日本新三大夜景都市としての魅力を活かして、利用者数の早期回復を図る必要がある。サービスの向上や安全運行の強化に取り組むとともに、藻岩山全体の魅力向上を図ることにより、市民や観光客の満足度や利用率の向上を図ることを期待する。
(2)収支状況	当該事業の収支状況は <input type="checkbox"/> 良好 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地あり <input type="checkbox"/> 要改善
	新型コロナウイルスの感染拡大の影響による2度の休業などのため、収支状況は令和元年度に引き続き悪化傾向。コロナ渦においては感染状況を見据えながら道内外の観光客はもとより市民に対しても情報発信を行うことにより、利用率の向上を図り、安定的な収益の維持・向上に努めることを期待する。

1 貸借対照表

令和3年3月31日現在

(単位：円)

資 産 の 部		負 債 及 び 純 資 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
I 流動資産	750,646,028	I 流動負債	1,005,419,330
現金・預金	420,903,503	短期借入金	300,000,000
売掛金	1,257,888	買掛金	2,037,368
商品	13,471,085	一年内返済予定長期借入金	221,492,000
材料品	2,995,759	未払金	125,002,570
貯蔵品	58,635,462	未払費用	3,051,704
前払費用	28,609,771	未払消費税等	12,419,600
未収金	94,579,791	未払法人税等	1,263,300
立替金	1,792,334	前受金	88,616,050
仮払金	22,763,521	預り金	19,308,022
未収消費税等	99,228,700	仮受金	226,428
未収法人税等	6,408,214	リース債務	232,002,288
II 固定資産	12,260,840,163	II 固定負債	9,428,674,769
1 有形固定資産	(11,848,608,494)	社債	900,000,000
建物	4,537,560,602	長期借入金	2,603,172,000
建物附属設備	992,635,615	退職給付引当金	86,500,565
構築物	424,219,572	長期未払金	168,748
機械及び装置	721,851,189	預り敷金	883,902,812
器具備品	150,589,701	預り保証金	173,516,648
車両	1,742,648	リース債務	4,781,413,996
リース資産	4,681,072,832		
土地	338,936,335		
2 無形固定資産	(11,528,141)	負債合計	10,434,094,099
電話加入権	2,475,662	株主資本	2,577,392,092
商標権	1,925,375	1 資本金	100,000,000
ソフトウェア	7,127,104	2 資本剰余金	462,600,000
3 投資その他の資産	(400,703,528)	資本準備金	462,600,000
差入保証金	371,655,444	3 利益剰余金	2,014,792,092
預託金	172,800	1)利益準備金	42,330,000
投資有価証券	8,001,000	2)その他の利益剰余金	1,972,462,092
保険積立金	162,000	固定資産圧縮積立金	244,308,787
長期前払費用	20,712,284	別途積立金	2,005,000,000
		繰越利益剰余金	△ 276,846,695
		純資産合計	2,577,392,092
資産合計	13,011,486,191	負債及び純資産合計	13,011,486,191

2 損益計算書

自 令和 2年 4月 1日
至 令和 3年 3月 31日

(単位：円)

科 目	金 額	
I 売 上 高		2,097,136,104
地代及び家賃収入	981,120,331	
駐車場収入	418,952,354	
受託料収入	199,534,412	
索道収入	209,439,689	
利用料金収入	82,259,617	
その他売上高	205,829,701	
II 売上原価		54,917,736
売上総利益（△は損失）		2,042,218,368
III 販売費及び一般管理費		2,590,291,497
営業利益（△は損失）		△ 548,073,129
IV 営業外収益		72,183,344
受取配当金	194,000	
その他営業外収益	71,989,344	
V 営業外費用		77,052,095
支払利息	54,751,036	
社債利息	3,007,833	
その他営業外費用	19,293,226	
経常利益（△は損失）		△ 552,941,880
VI 特別利益		28,014,059
受取補助金	28,014,059	
VII 特別損失		55,306,897
固定資産除却損	27,292,838	
固定資産圧縮損	28,014,059	
税引前当期純利益（△は損失）		△ 580,234,718
法人税、住民税及び事業税		1,263,300
当期純利益（△は損失）		△ 581,498,018